

スマートウェルネス住宅等推進モデル事業
空き家を活用した「としま福祉支援プロジェクト」における参加型人材リクルーティング
技術の検証実施報告書（令和2年度）

検証の内容：

当プロジェクトでは、空き家・空き室を活用した地域交流拠点の整備とセーフティネット住宅の整備を実施します。当プロジェクトに共感や支援・参加する方々を集め、一緒に作り上げ、開設後も継続して関わってもらえるきっかけになるよう参加の仕掛けとして、参加型で人材を募集した。

検証名

参加型人材リクルーティング

I 検証の目的

当プロジェクトでは、整備する2箇所の交流拠点や各事業の運営スタッフを参加型で募集すること及び、プロジェクトの人材募集方法としての参加型で募集することの有用性を計測、類似のプロジェクトにおいて活用できるよう、手法の確立を検証することを目的に設定した。

II 課題の設定

課題は「当プロジェクトに共感や支援、参加してくれる運営スタッフの獲得」に設定した。

III 検証方法

- ① 検証時期は、令和2年度（本年度の検証）の交付決定後、各施設が開設するまでとして2020年8月～2020年12月31日と計画していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の緊急事態宣言延長になったため、参加型イベントの開催を2021年3月～5月に延期し実施した。
- ② 内容
以下の内容を実施した。
 - ・適宜打ち合わせを実施し、企画立案：
 - ・イベントページにて募集案内の発信・募集開始
 - ・イベント実施
 - ・選考
 - ・選考後、有効性の考察
 - ・実施及び検証報告書の作成
 - ・検証報告書をHPにて公表
- ③ 検証の実施場所：
当協会関連施設、計画拠点、区の施設等を想定していたが、当プロジェクトの交流拠点「共生サロン南池袋」で実施した。
- ④ 検証の実施体制：当協会の監修のもと、プロジェクトに賛同する企業としてPLANBに企画・実務を依頼し、当協会と共催。市民参加型のイベントと連動させながらプロジェクトに必要なスタッフを募集し、選考する。選考、検証報告書の監修、募集後の研修等は当協会が実施した。

IV 検証成果

空き家を活用した「としま福祉支援プロジェクト」における参加型人材リクルーティング技術の検証実施報告書（令和2年度）

1) 企画立案

交流拠点「共生サロン南池袋」の開設時期に合わせ、住民参加型イベントを連動させながらリクルーティングを仕掛ける方向とした。交流拠点「共生サロン南池袋」は2021年1月開設したが、新型コロナウイルス感染拡大防止による緊急事態宣言が発令されたことにより、1月、2月、3月の住民参加型イベント及び3月のセミナーを見送ることになった。

2020年12月、セーフティネット住宅「共生ハウス西池袋」の一人目の入居者が決定した。入居者のO氏は、発達障害とひきこもり問題を抱え、当事者の立場からピアサポートを行う活動家であった。O氏の生活設計の相談をする中で、将来80-50問題の当事者ともなりうるとの懸念を抱き、経済的自立を希望し初めての一人暮らしを決意された。当協会で雇用し、共生ハウスの管理人と共生サロンの運営のサブマネージャーとして、自立を目指すことになった。

これまで実施してきた住民参加型イベント開催や、広報活動の中で、地元の不動産関係者、デザイナー、福祉事業者関係者との出会いがあり、当プロジェクトの広報（HP制作、SNS発信）、物件の開発、セミナー講師、プログラムの運営者、クラウドファンディングなどの協力を得てきたが、コロナ禍において、当プロジェクトが当初に課題設定した層（高齢者、障害者、ひきこもり、生活困窮者）の緊急性がさらに高まり、リクルーティングの対象者を当事者に絞り込んで企画を立て直した。

延期した住民参加型イベントは3月、4月、5月に設定し、リクルーティングのイベントは、5月に「ボランティア交流会」として計画した。各ゲストスピーカーは、O氏のひきこもり支援団体や当事者のネットワークから当プロジェクトの賛同者に依頼し、参加対象者も主に当事者とした。アルバイトやボランティアの募集カードやチラシを作成、配布し、募集を呼び掛けた。

5月にリクルーティングのイベントを企画していたが、緊急事態宣言が延長になり、計画は事業主体と運営参加者及び運営参加者同士のコミュニケーションの場を目的としていたため、緊急事態宣言の解除後の6月にイベントを実施した。

2) 募集案内の発信・募集開始

① 当事者及び専用ホームページにて発信と募集

共生ハウスの入居者O氏が当協会のアルバイト第一号となり、1月～4月告知活動を行った。その活動を支援するツールを専用ホームページに制作し、掲載した。O氏は、共生ハウスに居住しながら共生サロン等で働くことで「自立へのステップを」と呼びかけた。

https://peraichi.com/landing_pages/view/kyouseihouse

② 案内ツールの配布にて発信及び募集

持ち帰りやすい名刺サイズの案内を制作し、各地のコミュニティスペースや居場所においてもらった。



共生サロン南池袋 (池袋駅東口(南)から徒歩5分)
会員制の健康増進サロン

コーチ付き初心者コース開催中! 事前予約制・完全禁煙・全額掛け無し
健康麻雀 月・火・木・全曜 午前の部13:30～、午後の部16:30～

初心者歓迎! 事前予約制・レッスン90分
卓球サロン 土曜 9:30～16:30

一般社団法人
コミュニティネットワーク協会
【会場】豊島区南池袋3-13-13 ロスハイム池袋202
☎ 03-6256-0570
✉ support@100com.jp

詳細はLINEで
QRコード

※ボランティア随時募集中

3) 市民参加イベントで発信及び募集

3月、4月、5月の市民参加イベントは、ひきこもり当事者に登壇者を務めてもらい、登壇者のネットワークから参加を募った。案内チラシの裏面には「ボランティア・アルバイト募集」の内容を掲載し、告知した。また各回のイベントの場でも、参加者に対して共生サロンの説明とボランティア・アルバイト募集の告知を行った。

▼ 3月、4月、5月の市民参加型ちらしの裏面

空き家を活用した

〈都心部の孤立と貧困を解決する〉

としま・まちごと福祉支援プロジェクト

～豊島区から発進する、多文化・多世代共生型コミュニティ～

豊島区内の空き家物件を、セーフティネット住宅（高齢者、障害者、生活困窮者などの入居を拒まない賃貸住宅）として活用し、見守りを行う仕組みを作ります。また見守りを行うための拠点を池袋駅周辺に1つ、その他豊島区内に1つの2カ所作り、全ての人たちが利用でき、楽しめる交流拠点としても活用します。

「空き家を活用した『としま福祉支援プロジェクト』」は
国土交通省 住まい環境整備モデル事業・
豊島区 共同居住型住宅の改修費助成事業です。

としまプロジェクト
webサイト

地域住民
↓ 住み替え
空き・空き家を活用した
セーフティネット住宅
↓ サービス利用
見守り拠点 交流拠点

セーフティネット住宅共生ハウス西池袋

交流拠点共生サロン南池袋では【健康マージャン】 【卓球教室】などを開催中

＜共生サロン南池袋＞スタッフおよびボランティア募集中

共生サロン南池袋では、共にコミュニティを創っていく仲間を募集しています。

年齢不問・時間応相談

- マージャン経験者（打ち子）
- 卓球コーチ（ボランティア）
- 日替わり居酒屋経営者（会場利用者）
- 経理担当（アルバイト）
- 貸金業取引主任者

共生サロンを使ってこんなコトやりたいという人も応援します

一般社団法人コミュニティネットワーク協会とは

阪神淡路大震災の被災者支援を機に、在宅医療に取り組んできた医療チームが中心になり、1999年に設立しました。世代、健康状態、生活の価値観が異なる様々な人が集い、お互いの生活を尊重しながら、3世代にわたって継承・維持していく「100年コミュニティ」の拠点づくりを目指しています。

<https://www.conet.or.jp>
 100年コミュニティ 検索

ビスハイム池袋(2階)
 共生サロン
 南池袋

<3月市民参加型イベント>

講師:30代、自ら発達障害に気づき、NPO 法人発達障がい者を支援する会の理事として活動



<4月市民参加型イベント>

講師左:40代、発達障害、ひきこもりコンシェルジュとして活動。

講師右:30代、友人が発達障害であったことを機に、ひきこもり当事者向け在宅支援サービス「COMOLY(コモリ一)」を立ち上げた支援者。



<5月市民参加型イベント>

講師：30代、自身も当事者として、東村山市で障害をもつ人やその家族のために「ローズケア」を立ち上げた。共生サロンで1DAY 居酒屋を主催。



4) 案内ちらしにて発信及び募集 (赤枠参照)

▼ 5月のセミナー案内ちらし表面

▼ 5月市民参加型イベント案内ちらし表面

参加無料
「としままちごと」協賛
「としままちごと」協賛PJ会議

コロナ禍を乗り越える緊急会議

開催日 **5月15日(土)** 14:00~16:00
会場 **としま区民センター 403会議室**
対象 **会場30名** (オンライン視聴可100名)

【特別招待】 コロナ禍の小さな「困難」再生ハリス問題意識を促すこと

【特別】 元「としまPJ」会議、視座を学び継承と交流促進を図って「困難を抱える人を社会全体で支えるために」

地味市域内所「共生サロン南池袋」の運営にあたりも参加しませんか?
「ボランティアメンバー交流会」開催

5月16日(日) 15:30~17:30
会場 **共生サロン南池袋**

定員 **30名**

●マージャン経験者 (打ち子)
●研修コーチ (ボランティア)
●研修のり推進員 (会場利用者)
●研修担当 (アルバイト)
●賛助企業員 (主催者)

お問い合わせ先
TEL 03-6256-0570 e-mail support@100com.jp
〒112-8555 東京都板橋区3丁目13-9 ビスハイム南池袋202 一般社団法人コミュニティネットワーク協会

参加無料
「としままちごと」協賛PJ会議

元ヤンキーが教える コミュニケーション術

開催日 **5月16日(日)** 14:00~15:00
会場 **共生サロン南池袋**
定員 **20名** (ZOOM視聴も可)

元ヤンキーだからこそ伝えられる、斬新な視点の社交術！
驚かすことだけがコミュニケーションではない！

- ・相手に好印象を残したい
- ・自分から話すことが苦手
- ・ヒトとの距離感が掴めない・・・

そんな悩みを克服するのに役立つテクニックを教えます。

18:00からは懇親会も予定しています
軽食付き2,000円 (アルコールドリンクは別料金)

地味市域内所「共生サロン南池袋」の運営にあたりも参加しませんか?
「ボランティアメンバー交流会」同日開催

5月16日(日) 15:30~17:30
会場 **共生サロン南池袋**

定員 **30名**

●マージャン経験者 (打ち子)
●研修コーチ (ボランティア)
●研修のり推進員 (会場利用者)
●研修担当 (アルバイト)
●賛助企業員 (主催者)

お問い合わせ先
TEL 03-6256-0570 e-mail support@100com.jp
〒112-8555 東京都板橋区3丁目13-9 ビスハイム南池袋202 一般社団法人コミュニティネットワーク協会

5) 市民参加型リクルーティングイベント

日時:6月24日 18:00- 場所:共生サロン南池袋

参加者:11名(発達障害、ひきこもりなど 生き難さを感じている当事者)

<コミュニティネットワーク協会>

・取り組みの紹介、としまプロジェクトの説明、本会の趣旨説明



<参加者の自己紹介>

Hさん)ココペリです。Yさん(4月のゲストスピーカー)から紹介を受けて共生サロンの健康麻雀の手伝いをしたことがきっかけでこのプロジェクトに関わり始めた。もともと発達障害の支援活動で健康麻雀のイベントをしていた経験がある。共生サロンの健康麻雀の有料ボランティアをはじめ、自分でイベントを主催したりもしている。ここでの活動は面白いし、有効活用もしていきたい。応援していきたい。

Oさん)Fさん(5月のゲストスピーカー)が、このプロジェクトに縁があり、紹介を受けた。絵が得意で自作で紙芝居を作成し、大人向けの紙芝居を実施したりしている。

Kさん)HさんやFさんと縁があり、声をかけていただいた。好きなことは車、スポーツ。

Sさん)共生サロンのマネジャーの湯峰さんと友達。声をかけていただいた。麻雀とお酒が好きです。湯峰さんは優しい人。

Iさん)湯峰さんから声をかけていただいた。公の場で話すのには苦手。

Fさん)ココペリさんから紹介を受けた。有料ボランティアで健康麻雀に参加したりしている。キッチンを借りて居酒屋のイベントを実施したり、5月はイベント講師でコミュニケーション講座を試してみた。いろいろやりたいことがあったが、コロナでなかなか実施できないでいる。

TMさん)(先日、Fさんと婚約)ありがとうございます。Fさんの魅力は優しい、おおらかなところ

Tさん)カフェに通っていたらFさんに会い、TMちゃんと出会い、仲良くしていたら、共生サロン南池袋の健康麻雀にいきました。

FNさん)立教大学の社会学部。立教大学で協会が講演をしてくださった。それをきっかけに勉強したいと思った、居場所づくり、楽しめる場所づくりをしたいと思った。将来、マスコミ関係に勤めたい。

<運営参加者のご挨拶>

現在、共生サロン南池袋の運営に関わっている3者(湯峰さん、宮本さん、三宅さん)よりご挨拶

湯峯さん)ここに来るようになったのはHさんのおかげ。高田馬場にある Necco カフェと言って発達障害の人が集まる場所がある。そこに通う中でHさんに出会った。ぼくは障害はないが、麻雀をやらないかと誘ってくれた。Hさんからこの共生サロンの紹介を受けた。ここに来て3ヶ月しかたっていないのにマネジャーをやっている。続けていけそう。仕事としては楽しい。繁盛させたい。

宮本さん)コロナで生活で苦しくなって、区役所で相談したら、協会を紹介された。こんな私でもその場で入居を決めてくれた。13年間まかないの仕事をしてきた。合間をみてここのお手伝いさせてもらおうと思っていた。麻雀の仕事も15年してきた経験がある。手伝いくらいならできると思った。ここにインターンで来ていた大学生が、お母さんのようにしたってくれ、手伝ってほしいと言われた。ここに来て皆さん良くしてくれた。気にかけてくれた。助かっている。

三宅さん)ここに来た理由は、湯峯さんに助けてくれと言われてきた。おじいちゃん、おばあちゃんと麻雀打つだけだと思ったら以外にやること多いと思った。感想は、難しいです、楽しいです。考えながらやっているの、若干疲れます。



<プロジェクト参加希望者>

会終了後に、2名から参加希望者の申し出があった。

- ① Iさん：サロン運営希望
- ② FNさん：広報希望

<まとめ>

・ 参加者は、高田馬場にある大人の発達障害当事者のためのピアサポート「Necco カフェ」で知り合った、情報サイトの「ジモティ」の健康麻雀希望者の発信から繋がった、という人が多く、共生サロン南池袋に主体的に関わっている方の紹介で今回のイベントに参加した方が多くを占めた。住んでいるところはさまざまだが、共生サロン南池袋は足を運びやすく、新たな居場所がもうひとつできた、と位置づけていると感じた。参加者同士の関係は、知り合っただけで2~3ヶ月程度の方も多く、だれか1人信頼できる人が来ていることで連鎖的につながりやすい状況にあることがわかった。

・ 周辺にある評判のよい就労支援団体(日本初の大人の発達障害当事者による居場所 Necco カフェ(新宿区西早稲田)、日本初のLGBTフレンドリーな就労以降支援事業所 ReBit(新宿区に8月開設予定)など)との区をまたいだネットワークとも連携をはかり、もう一つの交流拠点での就労者及び利用者を継続的に獲得していきたい。

6) 選考

参加型のプロジェクトを推進するなかで、プロジェクトに関わっている方8名

- ① 0氏

発達障害、40代。居住支援協議会での当プロジェクトの講演に聴いたことをきっかけに、共生ハウスへの入居を希望し、入居に至る。自立を目指し共生ハウスの管理人の役割、共生サロンの運営サポートに関わる。その後、豊島区に臨時職員として採用された。

② H氏

発達障害、30代。4月の市民参加型イベントの講師Yさんの紹介で健康麻雀の打ち子として共生サロンの活動に参加したことをきっかけに、当プロジェクトを知る。「共生型」の理念に賛同し、健康麻雀の有償ボランティアやイベントの開催などで運営に関わる。

③ Fさん

障害の生きづらさを抱えた人のサークルを主催。30代。②のHさんの紹介で、健康麻雀の打ち子として共生サロンの活動に参加したことをきっかけに、健康麻雀の有償ボランティアで運営に関わる。イベント好き、趣味が料理であることから、5月の市民参加型イベントの講師でイベントを企画、共生サロンのキッチンで居酒屋イベントを企画・開催するなど運営に関わる。

④ Yさん

中学時代に軽い不登校を経験、30代。②のHさんの紹介で、健康麻雀の打ち子として共生サロンの活動に参加したことをきっかけに、健康麻雀の有償ボランティアで運営に関わる。掲示板サイトジモティで健康麻雀サロンを自主運営していた経験があり、現在は共生サロン南池袋の健康麻雀のマネージャーとして運営に関わる。

⑤ MHさん

職場いじめのダメージからひきこもりとなり、生活保護を受けている、20代。④Yさんから手伝いを依頼され、共生サロンの運営に関わる。

⑥ Mさん

コロナで住まいを失いかげ、1月に共生ハウスの入居者となった80代。若い頃、豊島区内で15年雀荘を経営していた経験がある。その経験を生かして共生サロン南池袋健康麻雀サロンの運営に関わる。

⑦ Jさん

兄弟や姪が発達障害をもち、支援している。当プロジェクト賛同者PLANBのIさん紹介にて、心身の安定に効果のあるアロマ呼吸法やヨガを指導することで、困難を抱える本人や家族を支援したいと、共生サロン南池袋で毎月ヨガイベントを開催している。

⑧ Tさん

卓球の用具販売者に勤務。当協会の活動に賛同。卓球愛好家を増やしたい目的を持ち、子どもから高齢者まで世代を超えて一緒にできるコミュニケーションスポーツとして世に広めたいと、共生サロン南池袋で毎週卓球教室を開催している。

7) 有効性の考察

プロジェクト前半は、参加型活動の中で、地元の不動産関係者、デザイナー、福祉事業者関係者との出会いがあり、当プロジェクトの広報（HP制作、SNS発信）、物件の開発、セミナー講師、プログラムの運営者、クラウドファンディングなどの協力者となり、プロジェクトを推進していただいた。しかし、コロナ禍で、参加型活動もzoom開催が中心になり、情報発信がWEB配信となる中で、思うような層の集客が見込めなかったことや、賛同者から一歩進み、役割を持ちながらプロジェクトに関わるかたちへと発展させることが出来なかった。

コロナが長引く中で、当プロジェクトが課題設定した層の高齢者、障害者、ひきこもり、生活困窮者の緊急性がさらに高まり、当協会に相談が入るようになり、接点が出来始めた。それら当事者と対面によるコミュニケーションで各者のニーズを把握することで、リクルーティングの対象者を明確化することができた。

明確化したリクルーティングの対象者に向けた集客は、接点が出来た当事者等の協力を得て、当事者の持つSNSを通じたネットワークへの呼びかけや、共生サロン運営で出会った方へ直接アプローチする方法に切り替えた。それにより、豊島区住民とはかぎらないが広く首都圏のひきこもり傾向の若者層にリーチすることができた。3月、4月、5月の参加型イベントは会場に参加頂く方式に戻した。各会の参加者は当プロジェクトの課題設定した層の高齢者、障害者、ひきこもり、生活困窮者等が占め、会場参加のイベントを通して、参加者同士がつながる場や、新たに仲間を紹介して頂く機会となった。また、手探りの状態であったため、事前に明確な報酬を明示できなかったことや、業務の拘束時間に対してアルバイト料が見合わず断られるケースもあり、今後の課題として受け止めたい。

結果的に、当プロジェクトの参画者は、参加型イベントのゲストスピーカーの紹介者が多くを占めたことから、参加型によるリクルーティングの手法は有効だったと言える。

尚、参加型イベントだけではなく、多様な情報提供及び普及の切り口により、当プロジェクトへの多くの賛同者と出会うことが出来た。同時にWEBだけでは賛同者の層の広がりには限界があったことも明確になった。リクルーティングの対象者が課題解決する当事者に定まったことで、伝えるメッセージや発信先が明確になったことも大きい。参加型イベントが当事者の抱える課題を共感する場としても役割を果たしたと言えることから、会場参加の対面コミュニケーションの必要性も再確認できた。今後も社会の動向を踏まえ、参加型活動を推進したい。

以上